

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームぬくぬくの家・幸

作成日 : 平成 28年 3月 14日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6 (5)	建物が1.2階と分かれており利用者は2階フロアで日中過ごすことが多い。2階にて職員が他利用者介助中にエレベーターで1階へ下りて外に出たことがあった為、エレベーターにカバーをしている。	利用者がエスケープする場合、理由があると思われるので、本人の状況や職員の対応を具体的に確認して、エスケープに繋がらないような対応を検討していく。	勉強会やミーティングを通して、職員の対応についての振り返りを行い、望ましい関わり方について検討していく。少しでもカバーが外せるための工夫についても適宜検討していく。	12ヶ月
2	33 (12)	どのような終末期を迎えたいのか等の具体的な話し合いをご家族とは入所時以降は行っていない。また終末期の看取りケアを実施するに関しても、職員間で不安が大きく、看取りケアの是非についても統一した見解がでない。	グループホームにおいて看取りケアを行うために必要な前提条件や課題について職員間で話し合い、看取りケアを実施するに必要な前提条件や課題を明確にする。またその看取りケアを実施するために必要な前提条件や課題に優先順位をつけ、必要事項について適宜検討し、対応策に着手していく。	グループホームにおいてどこまでの看取りケアが実施可能なのか、職員が安心して看取りケアを提供していくために必要なものは何なのかを明確にし、取り組み可能なことから適宜対応していく。	12ヶ月
3	5 (4)	那覇市グループホーム連絡会や運営推進会議で、日頃困っている事などは相談したりしているが、行政担当者と特に連携はとっていない。	認知症介護についての情報の収集や、地域包括支援センターとも連携を取り、日頃のケアに活かす。地域においても認知症介護についての勉強会を行う。	認定更新時や窓口を訪れる際は、利用者の状況や施設が困っている事など積極的に伝える。地域包括支援センターと連携を取り「認知症カフェ」や地域で求められる「認知症サポーター養成講座」にも協力していく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。